

投資の好きな香港人

香港駐在員事務所
秘書 Hau Siu Yun, June

香港人は一般的に、他のアジアの人と比べて「ハイリスク・ハイリターンの投資を好む」傾向が高いとされているようです。

しかし、実態はどうなのでしょう？また、リーマンショックに端を発した世界同時不況後も投資スタンスに変化は無いのでしょうか？

香港上海銀行（HSBC）が昨年、香港、台湾、中国本土、インド、シンガポール、マレーシア、インドネシアの富裕層¹約 2,000 人に対して資産運用状況の調査を実施しました。

同調査によると、香港は証券に投資している人の割合が 87%と上記 7 カ国・地域で最多であり、香港の個人投資家の証券に対する関心・興味はアジアの中でも高いことが判明しました。

同じく昨年、香港大学が香港市民約 1,000 人を対象として行った、世界同時不況前後の投資動向に関する別の調査では、過去 1 年以内に約 70%の人が何らかの金融商品への投資（うち約 72%が株、約 59%がファンド）を行っており、世界同時不況前後で投資自体に対する意欲に大きな変化は無いと結論付けています。

しかし、同調査によると世界同時不況前後で保有資産の中で預金の割合がやや高まるなど、リスクの高い金融商品に対する警戒心が強まっている他、主な投資対象地域が欧米から香港・中国本土へシフトする動きが見られるなど、投資の内容は微妙に変化しているようです。

今年 7 月、香港政府により発行された初の物価変動連動型公債「i ボンド」は、事前調査での人気は高いものではありませんでしたが、実際には「株よりリスクが低く預金より利回りが良い」として、香港の個人投資家から募集額を大幅に上回る応募があり、市場関係者を驚かせました。

また、中国当局は香港を人民元国際化のための実験場「=オフショアセンター」と位置付け、他地域に先駆けて人民元取引の規制を緩和。2004 年の人民元預金に始まり、現在では債券、ファンド、保険など様々な人民元建て金融商品が販売されています。

米ドルに連動している香港ドルの超低金利が続く中、比較的利回りが良く、将来の為替差益も期待出来る人民元建て金融商品は、香港の個人投資家の注目を集めています。

飲茶を食べながら、また電車の中で携帯電話を使って友人や家族との「おしゃべり」を楽しむ香港人にとって投資の話は重要な話題の一つです。景気の動向や新しい金融商品の販売などによって、投資スタンスや嗜好は変化しつつも、投資自体は香港人にとって身近な存在であり続けると思います。

以上



香港の銀行は様々な人民元建て金融商品を販売

¹保有する資産額（不動産除く）が、それぞれの国で上位 10%の個人